

若者みんなでつくりだす
～会津若松創生コンペによる継続的地域活性化施策～

専修大学商学部石川ゼミナール（担当教員：石川和男）

代表者：河原井遼

発表者・参加者：河原井遼 相澤翔 一柳咲樹 鈴木悠真 橋本拓哉 馬目那奈

梗概

私たちは、「地方都市における若者の定着～若者に選ばれるまちの実現に向けて～」では、若者の転出抑制と、転入促進の双方に策を講じる必要があると考えた。そこで、市内外の若者が会津若松市における仕事について考える機会を創出し、同市で働く若者を増やし、同市の経済活性化によるまちの振興を促すという、「しごと→ひと→まち」の流れを重視した、「若者みんなでつくりだす～会津若松創生コンペによる継続的地域活性化施策～」を提案する。

本プランは、以下の2つの施策からなる。

- ① 若者の地域定着を目指し、アイデアの実現を支援する団体「あいづっとワーク」を設立・運営する。会津若松市の将来を支える若者の意見を具現化するため、アイデアの設計から実現までを支援する組織を設立する。また同市の行政、金融機関、企業などと、市内外の参加者との交流を促すことで、会津若松市に親しみを感じてもらう。
- ② 会津若松市およびそれ以外の地域の若者の注目を集め、「会津若松市」について考える機会を創出し、「あいづっとワーク」主催の「あいづっとグランプリ」を開催する。本グランプリ開催により全国からの注目を集め、同市に興味を持ち、同市での新たな雇用を生み出す機会とする。同時に「あいづっとワーク」が参加者を支援し、フィールドワークや地域住民との交流、地元企業への取材の時間調整など同市の協力者と参加者のネットワークを構築する役割を持つ。

これら2つの施策により、会津若松市で生まれ育った若者の地元愛を深め、転出を抑制することと、市外で居住する若者が同市へ訪れ魅力を発見するきっかけを創出し、全国から同市への転入を促進することを期待する。またコンテストを契機としたビジネスの創出および実行を可能にし、同市の経済を発展させることで、よりよい「まち」にする。私たちのプランは、会津若松市、同市内外の若者、地域住民を巻き込み、同市の振興に貢献するものであると確信している。

1. はじめに

私たちは、「地方都市における若者の定着～若者に選ばれるまちの実現に向けて～」という今回のテーマから、会津若松市において若者の存在が非常に重要であると捉えた。このことを常に念頭に置き、まず会津若松市の現状分析や2回にわたる現地調査を行った。そこでは、市内の若者が進学・就職を機に市外へ転出してしまうこと、私たちを含む市外の人が会津若松市を訪れる機会が無く同市の魅力が知られていないことが課題であると強く感じた。それゆえ、若者の転出抑制・転入促進策を講じる重要度の高さは明らかである。以上を踏まえ、私たちは、転出抑制と転入促進の双方にアプローチできるプランを考えた。本レポートでは、はじめに現状分析および現地調査の結果とそれに対する考察を示した。次に私たちが考えたプランの内容、さらに本プランによって得られる効果について提言した。

2. 会津若松市の現状分析および現地調査

2-1 会津若松市の現状と人口動向

会津若松市は、福島県西部に位置する都市で、豊かな自然環境と歴史的背景を持つ地域である。福島県でも有数の地方都市であり、会津地方の中心地である。ここでは同市の産業と人口動向に

ついて述べる。

(1) 基幹産業

会津若松市の基幹産業は、農業、観光業、そして伝統工芸である。

1) 農業

農産物は、会津地方の気候と土壌を活かした米作りが盛んであり、特に「会津米」は質の高いブランド米として知られている。また高品質の米や水を活かした、日本酒製造も盛んであり、市内には酒蔵も多くある。野菜や果物の生産も行われており、地元の料理店や旅館などで地産地消されているほか、首都圏にも出荷されている。

2) 観光業

歴史的な名所は鶴ヶ城が有名である。戦国時代から続く会津藩の歴史や幕末の戊辰戦争にまつわる遺構が数多く残っている。また、近くにある東山温泉や飯盛山は観光客の人気を集め、観光業が地域経済を支える柱の1つとなっている。

3) 製造業と伝統工芸

伝統工芸品は、「会津塗」が有名である。会津塗は、400年以上の歴史を持つ漆器で、丈夫さと美しさで知られている。現在は、漆器のよさはそのままに、若者が伝統文化に触れ後世に受け継がれるような会津地方独自のデザインや技法を導入している。また、市内の至るところに名物の「赤べこ」が飾られており、地域愛が深いことを感じると同時に、地元産業が日常生活に溶け込んでいることがうかがえる。

(2) 会津若松市の人口減少

会津若松市は、近年人口減少が深刻化しており、特に若者の転出が問題となっている。人口推移を見ると、2000年に約130,000人であった人口は、2020年には約119,000人と20年で約14,000人減少している。こういった出来事は日本全体でいえるが、加えて、2020年の会津若松市の高齢化率は32.4%(図1参照)に達している。若者離れが加速しているため、自然減少が加速している状況である。出産適齢期の女性数が減少しているため、出生率も2023年には597人にまで低下しており(図2参照)、消滅可能性都市に入るほど、少子高齢化が進んでいる。

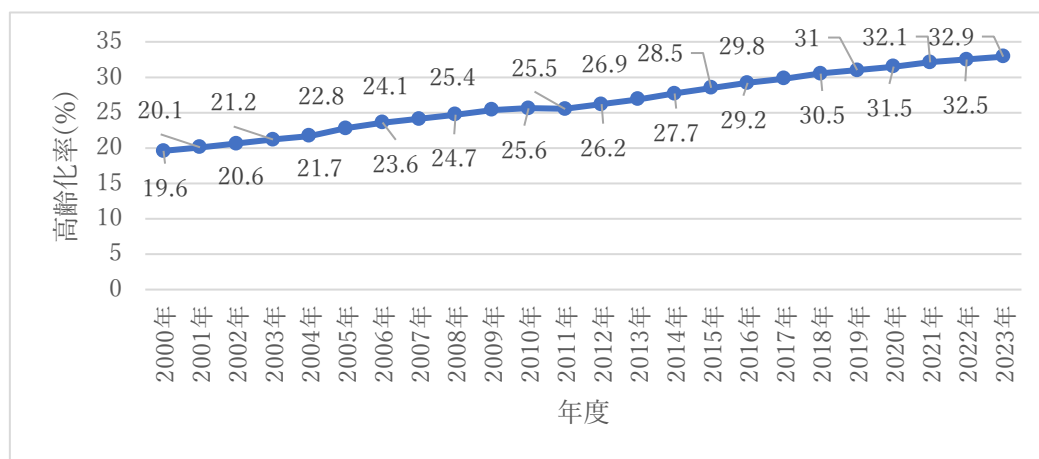


図1 会津若松市高齢化率
(会津若松市市勢統計データをもとに作成)

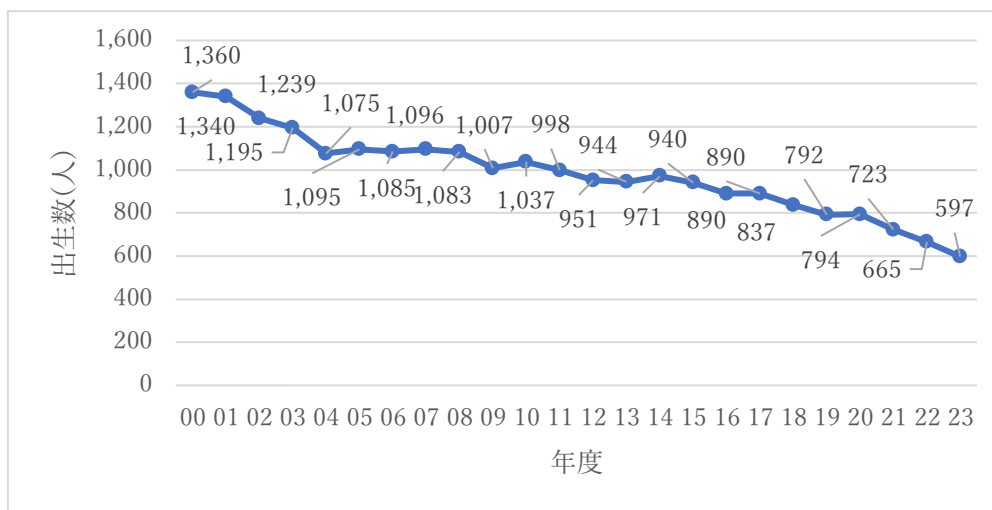


図2 会津若松市の出生数推移
(住民基本台帳ベースをもとに作成)

若年層の転出超過は、年間 500～600 人程度にのぼり、進学や就職を機に都市部へ転出する若者が多い。その要因としては、会津若松市内には高等教育機関が限られており、進学を機に若者が福島市や仙台市、首都圏へ転出する傾向が強い。また、若者にとって魅力的な商業施設、娯楽施設が極めて少ないことも挙げられる。これらにより、出生数も減少し、地域の持続的な発展が難しくなっている。

(3) 生産年齢人口と衰退

会津若松市において特に目立っているのが、生産年齢人口の減少である。2000 年には 85,732 人だった生産年齢人口は 2020 年には 65,104 人と 20 年で約 20,000 人も減少している(図 3 参照)。地域社会における働き手が減少することは、さまざまなところに弊害が出る。中でも 20 代から 30 代の若年層が地域を離れることにより、地元経済の縮小や労働力不足につながっている同市の事業者数は、年々減少し(図 4 参照)、産業の縮小はもちろん、雇用場所の減少にもつながっている。長く続いた経済不況やコロナ渦の影響があったにせよ、この 20 年で約 2000 社もの事業者が会津若松市からなくなっている。その結果として、雇用機会の不足や都市部との賃金格差が若者の転出を促進し、同市の経済の衰退が懸念され、商店や企業などの事業者が減っていくという負のループに突入することが懸念される。

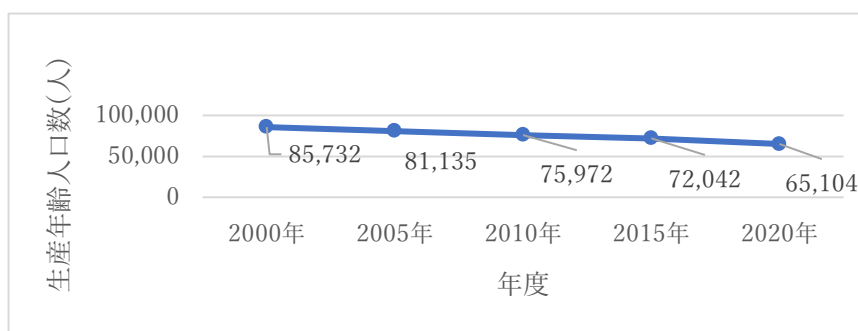


図3 会津若松市生産年齢人口推移
(政府の統計窓口 国勢調査会津若松市をもとに作成)

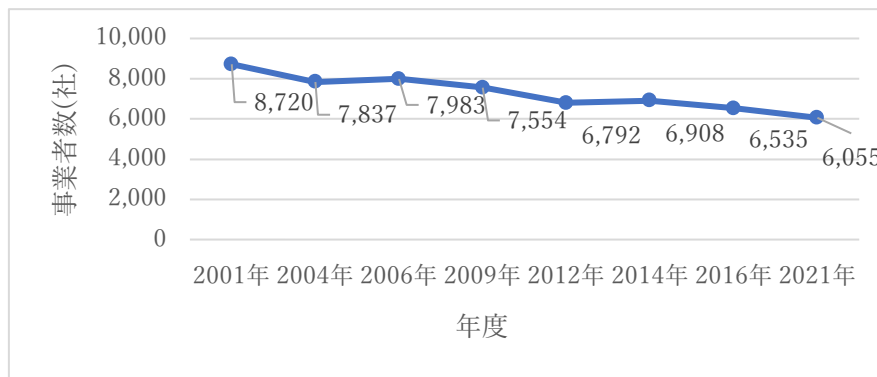


図4 会津若松市事業者数推移
(会津若松市市勢統計データをもとに作成)

会津若松市はこうした現状を打開するため、デジタル技術を活用したスマートシティ化や、観光資源の活用を図っている。たとえば、同市の中心地に「AiCT」というサテライトオフィスを設けることにより、都市に集中した本社機能の移転を促し、ICT 関連企業を増やす動きがみられる。しかし、これらの効果は限定的であり、事態を好転にさせるには、さらなる施策が必要である。そのため、若年層、特に生産年齢人口の転出抑制と外部からの転入促進策の具体的な施策強化が急務である。特に、地域に魅力的な雇用機会を継続的に創出し、若者に定着してもらえ地域活力を取り戻す必要がある。

2-2 現地調査

(1) 調査内容

私たちは、会津若松市において2回の現地調査を実施し、第2回目の調査準備として第1回目の調査を行った。第1回目の現地調査は、2024年6月10日に実施し、地域の特性や歴史、文化を理解することに重点を置いた。市内の公共施設や名所を訪れ、地域社会の状況を知るとともに、同市の生活課題や魅力について住民から初歩的な情報を収集した。この調査を通じて、住民の生活に関わる現状や地域資源を把握し、8月に予定していたアンケート調査の設計に必要な視点を整理した。

こうした準備を経て、第2回目の現地調査は2024年8月26日・27日の2日間にわたり実施した。この調査では、地域住民の協力を得ながら、中学生から90歳までの71名を対象にアンケートを行った。特に中学生、高校生、大学生といった若年層を中心として、地域の愛着や将来の進路選択に関する意識を調査することを目的とした。このアンケートでは、地域に対する愛着度や暮らしへの満足度、将来の進路に関する希望や不安について質問し、若者が地元に対して抱く思いや地域社会との関わり方に関する貴重なデータを収集することができた。このアンケート調査は、地域の皆様の温かい協力のもとで実現し、住民の声を直接伺うことで、地域課題や魅力に関する理解を一層深める機会となった。

1) 会津若松市に対する愛着度および将来の進路に関するアンケート

「会津若松市に対する愛着度」についてのアンケート結果は、図 4 の通りである。調査対象の 71 名中 69 名が「とても好き」または「好き」と回答し、97.2%が同市に対して強い愛着を持っていることがわかった。この結果から、住民、特に若者たちが地元に対して強い愛着心を持っていることが確認された。

「将来的にどのような進路を考えているか」については、図 5 の通りである。調査対象の 60 名の生徒に対して、進学や就職の進路について質問したところ、27 名が「都会へ進学・就職を考えている」と回答した。これは全体の約 45%に相当する。残りの 14 名（約 34%）は地元での進学・就職を希望していた。しかし、一定数の若者が都会を選択している状況にあることがわかった。その他 19 名の生徒は県内や東北などに進学・就職と回答していたため、図 5 には含まれていない。

このアンケート調査結果から、会津若松市に居住する若者たちは強い地元愛を持っているものの、進学や就職に関しては、都会を選択する傾向がある。これは、地元での教育機関や就職先が限られているため、若者が自分の将来を考えると、都会へ進学・就職する必要があることを示している。

都会に比べて、多くの地方と同様に会津若松市内には専門的な学問分野や多様な職業機会が限られている。このため、若者が希望するキャリアや専門知識を追求するためには、都会に出ざるを得ない状況が生まれている。これは、若者が地元には強い愛着を持っているにもかかわらず、進学・就職を機に転出してしまうことを示している。

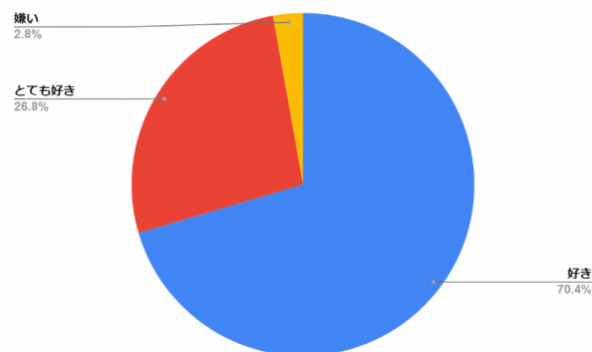


図 4 会津若松市に対する愛着度(現地調査をもとに作成)

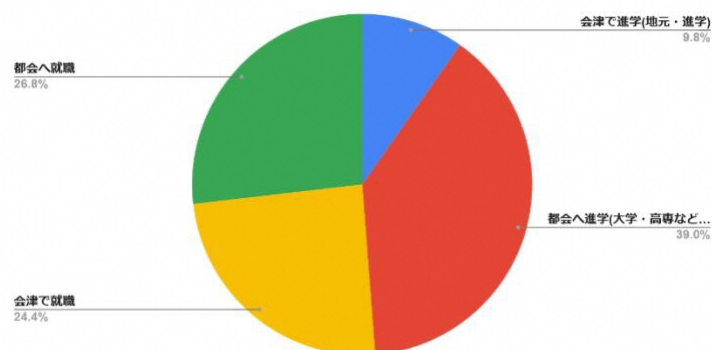


図 5 将来的にどのような進路を考えているか(現地調査をもとに作成)

2) 会津若松市に欲しいものについてのアンケート

「会津若松市に欲しい（住み続けたいと思える）もの」についてのアンケート結果は、図 6 のとおりである。ここでは、71 名中 49 名（約 70%）が「娯楽施設（映画館、ゲームセンターなど）」を同市内にほしいと回答している。これは、地元住民において娯楽施設の不足感が目立っていることを示している。特に地元の生徒がこの要望を強く持っており、彼らは休日に「遊べる場所が限られている」という現実がある。具体的には、映画館やゲームセンターがないため、生徒たちは市内のディスカウントストアに集まる傾向が見られる。

ディスカウントストアは、会津若松市内の若者にとって、事実上の娯楽施設となっている。特に休日や放課後に、生徒たちがこの商業施設に集まり、時間を過ごしている様子が目立った。これは、地元で娯楽を提供する施設が不足しているため、ショッピング施設が若者の遊び場として利用されている現実を反映している。

娯楽施設の不足は、若者が進学や就職を機に都会へ移住する動機の 1 つとなっている。都会には多様な娯楽施設が身近にあり、若者にとっては魅力的な生活環境である。このため、地元に住み続けるためには、日常生活で楽しみを提供する娯楽施設の充実が不可欠かもしれない。

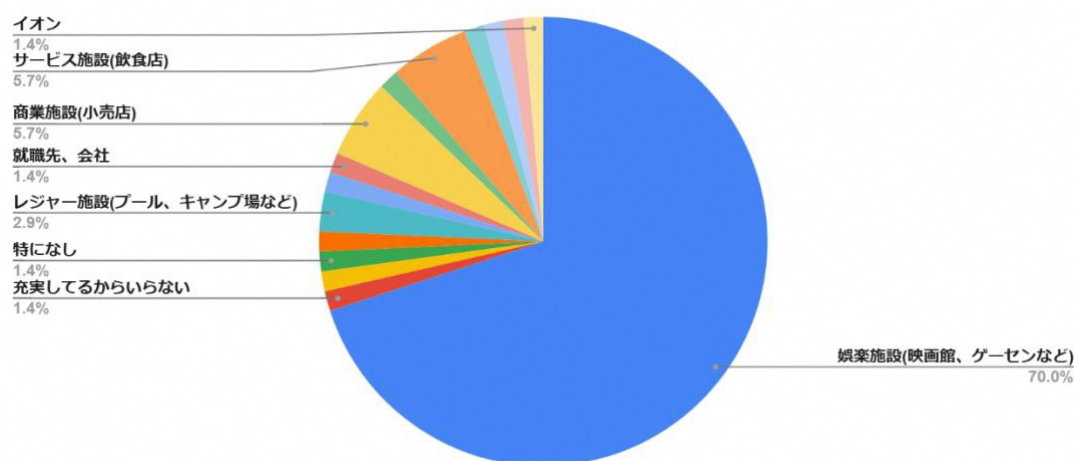


図 6 会津若松市に欲しいと思うもの(現地調査をもとに作成)

会津若松市に居住する若者たちは、アンケート調査の結果から、地元での娯楽の選択肢が少ないために、ディスカウントストアを代替の遊び場として利用していた。この現象は、地元での娯楽施設の欠如を反映しており、若者たちが休日や放課後に充実した時間を過ごすための場が限られていることを示している。これは、地域での生活の質の向上において大きな課題である。

(2) 「おためし地域おこし協力隊の活動」について

私たちのメンバーの 1 名は、2024 年 9 月 28 日から 30 日にかけて、会津若松市に隣接する会津美里町で実施された「おためし地域おこし協力隊」に参加した。この活動を通じて、まず印象的であったのは、会津地方の人々のあたたかさである。地域住民と現役で活動する協力隊員たちは、外部から来た人を快く受け入れ、親切に接してくれた。特に、地域に溶け込もうとする姿勢を尊重し、参加者が安心して活動に取り組めるよう手厚いサポートを提供していた。住民同士の絆も

非常に強く、地域全体が助け合いの精神で支え合っていることが、生活のあらゆる場面で感じられた。

このような地域社会の連帯感は、会津地方の深い地域愛に根ざしているものである。住民たちは、自分たちの生活する土地を誇りに思い、地域資源を大切に守りながら暮らしている。その姿勢は、地域行事や共同作業の中にも色濃く表れており、地域の伝統や文化が次世代へと受け継がれている。さらに協力隊活動の中では、地域外からの参加者と住民が互いに学び合いながら、新しい価値を創出する試みもみられた。これらの体験から、会津地方の魅力は、自然環境や伝統文化だけでなく、人々の結びつきやあたたかな心によって支えられていることが強く実感できた。

一方、会津地方が抱える深刻な課題として、若者人口の減少が挙げられる。進学や就職を機に都市部へ転出する若者が多く、地域に戻らないケースが目立っている。これは、地域社会全体にとって大きな問題であり、高齢化が加速する中で、地域の将来に対する不安が広がっている。特に、地元の経済活動を支える若年層の不足は、地域の持続可能性に深刻な影響を及ぼしている。

この現実には、地域社会において活力の低下を引き起こしつつあり、伝統や文化の継承が困難になる懸念もある。地域を活性化させるためには、若者が地元で働き、暮らすことができる環境を整えることが不可欠である。具体的には、地元での雇用機会の拡充や、若者が興味を持てる新たな産業やビジネスの創出が求められる。

今回の協力隊への参加を通じて、会津地方が持つ強みと課題の両面を深く理解することができた。地域の人々のあたたかさや結束力は、間違いなく地域の魅力であるが、同時に若者の定住を促進し、地域社会を持続可能なものとするための具体的な対策が急務であると感じた。今後、地域内外の人々が協力しながら、新しい形の地域社会を築き上げることが、会津地方の未来にとって不可欠である。

(3) 調査から判明した課題

現地調査や「おためし地域おこし協力隊」への参加を通じて、地域の人々のあたたかさが会津地方の大きな魅力であることを改めて実感した。しかしながら、若者の減少が進むことで、地域社会の活力が失われつつある現実にも直面した。この課題に対して、若者が会津若松市の持つ伝統や自然、地域コミュニティの魅力を誇りに感じられるような環境づくりが必要であり、地域全体で若い世代を積極的に呼び込む取り組みが求められている。

地域社会においては、都市部では得られない経験が多くある。たとえば、地域住民同士が支え合いながら生活するコミュニティの一体感や、四季折々の自然と触れ合いながら暮らすことは、都市部ではなかなか味わえないものである。また、祭事や伝統行事を通じて世代を超えた交流ができる点も、都市部にはない地域の魅力のひとつである。こうした経験が、外部から来た若者にとって新鮮な価値を持つと同時に、地域に根付くきっかけになり得る。

一方、地域の魅力を感じてもらうためには、若者が安心して働き、暮らしを築けるような持続可能な環境が不可欠である。若者が都市に転出する背景には、地域内での職業選択肢の不足や、娯楽や文化的活動の機会が限られていることが挙げられる。地域に残りたいという若者が「働く場所が見つからない」「キャリア形成の機会が限られている」と感じることは、深刻な問題である。また、地域の生活が単に魅力的であるだけでなく、若者が未来に希望をもてる社会をつくること

も重要である。都市部では体験し得ない、自然環境の中での子育てや、地域住民同士が支え合う暮らしの中で安心感を得られるコミュニティは、若者が長期的に居住したいという動機となる。

今後、地域のあたたかさや社会全体の魅力を維持しながら、若者が地域に定着できる施策を早急に進めることが不可欠である。具体的には、若者が興味を持てる地域活動や、新しい産業やクリエイティブな仕事の誘致、さらには都市と地方を結ぶ交流の場の創出が求められる。これらの取り組みを通じて、若者にとって会津若松市が「ただ暮らす場所」ではなく、「自分の可能性を広げる場所」と感じられるような地域づくりを目指していく必要がある。

2-3 アンケート調査、現地調査、地域おこし協力隊の活動からみえてきたこと

私たちが、現状分析および現地調査から見出した会津若松市の課題は、生産年齢人口の減少であり、その背景の1つとして進学や就職に伴う若者の転出があげられる。私たちは、この課題を踏まえ、テーマである「地方都市における若者の定着」の実現には、若者の転出抑制および転入促進に効果的な策を講じる必要がある痛感させられた。そして、会津若松市民の市外への転出を防ぎ、かつ市外の若者の転入を促進するために、「仕事」が十分にあるという認識を若者に持たせなければならない。そこで私たちは、会津若松市内外問わず、若者が会津若松市でできる仕事について考えるきっかけとなるプランを提案したい。

3. プラン内容

3-1 プラン概要

私たちは、若者を地方都市へと関心を向け、かつ転出を抑制させるためには「仕事」がなければ定着できないと確信し、以下のプランを提案する。

私たちが提案するプランの内容は、「若者みんなでつくりだす～会津若松創生コンペによる継続的地域活性化施策～」である。本プランは、「あいづっとワーク」という市役所職員、商工会議所職員、地方銀行職員、市民の代表者が運営する組織が主催となり、会津若松市で実現できるビジネス、地域ビジネスのアイデアを「あいづっとグランプリ」というコンテストで募るものである。

私たちが、コンテストを開催することにした1つの理由は、公共政策フォーラムに参加し、現地調査を通して、生活インフラの充実度や人のあたたかさなど、会津若松市の魅力を知ることができたからだ。訪れる前は、「何もなさそう」というイメージや、「会津の三泣き」という言葉のうちの一泣き(当初よそ者に対する厳しさに泣く)から連想して関係を築くのが難しそうといったイメージがあった。しかし、実際に訪れたことによりこのような偏見が払拭され、何度も訪れたいと感じるようになった。こうして地域を知ることによってイメージが変化し、2度3度訪れる人が増加すると推測できる。

もう1つの理由は、私たちが他のビジネスコンテストに参加した際、参加大学の中に、起業している事例もみられたことだ。一見ハードルが高そうな起業であるが、私たちが考えているほど難しいものではなく、若者がやりたいことを、積極的に活動できるような環境をつくりたいと感じた。

3-2 プランの詳細

～「あいづっとグランプリ」～

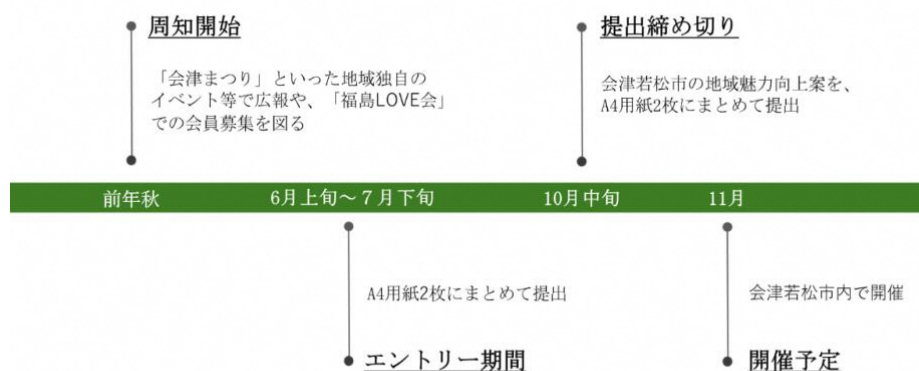


図7 「あいづっとグランプリ」開催までの流れ

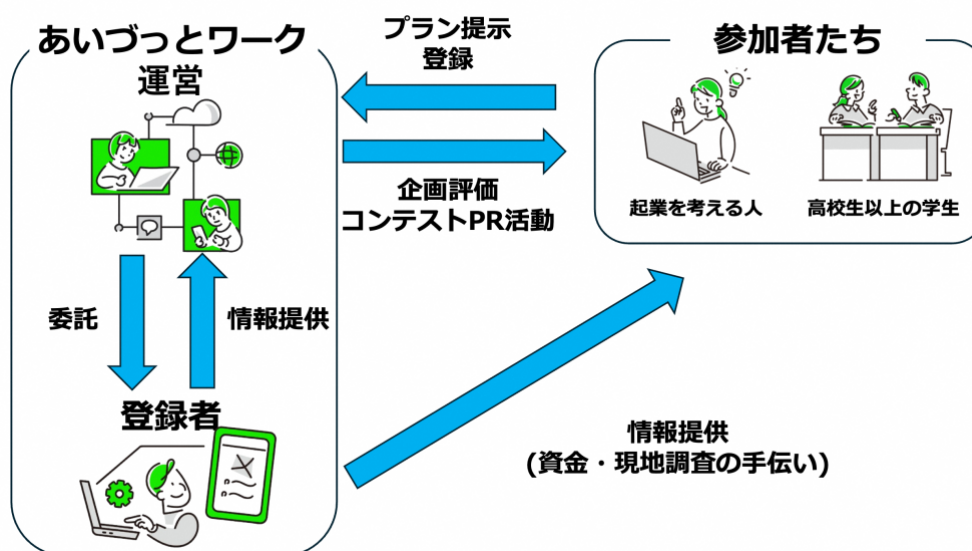


図8 「あいづっとワーク」のビジネスモデル

まず、「あいづっとワーク」について説明する。「あいづっとワーク」は、市役所職員、商工会議所職員、地方銀行職員、市民の代表者が運営となり、主に「あいづっとグランプリ」を主催し、登録者と参加者の仲介、「あいづっとグランプリ」の審査員といった3つの役割を持っている。

「あいづっとワーク」には、運営とは別に登録者として自治体、商工会議所会員、金融機関、農業協同組合、地元の企業、自主参加の一般市民、「あいづっとグランプリ」の参加者、「あいづっとグランプリ」参加後に興味を持ち続けてくれているOBが登録する。そして、「あいづっとグランプリ」参加者の支援を「あいづっとワーク」を介して行う。これらにかかる費用は、南会津町と会津信用金庫が「地方創生に関する包括連携協定」を結び地域経済の活性化及び地域社会の維持・発展、住民サービスの向上に資していることや、その他の地方銀行が地方創生に尽力してい

ることから、地方創生に関するこのプランにも地方銀行による支援が可能と考える。また、城下町會津まちづくり寄附金(ふるさと納税)の一部拠出によりまかなう。

参加者は、登録した「あいづっとワーク」を利用して、会津若松市に詳しい人から情報収集やオンラインによる対談、現地訪問の際にこれを通じて企業訪問などのアポイントを取り交流をしてもらうことで、会津若松市の魅力や住民の方とのつながりを意識してもらい、県外にいても会津若松市を身近に感じてもらうことを副次的な意味としている。

本プランの形態としては、市役所のホームページサイトを掲載してオンライン上で活動し、コンテストのPR活動はSNSや掲示板といったインターネット上での広報を中心とする。また、登録企業に宣伝依頼を行い、「会津まつり」といった地域独自のイベント等で広報や、「福島 LOVE 会」での会員募集を図る。県外から会津若松市を訪れた場合も、同市を第2の地元のように思ってもらいたいという狙いもある。

「あいづっとワーク」が主催とする「あいづっとグランプリ」には、1年に1回、会津若松市内で開催する。このコンテストは、高校生以上の幅広い年代からの参加を想定している。本コンテストをきっかけにはじめる「ひと」はもちろん、以前からビジネスを考えていた「ひと」の参加も想定している。6月上旬から7月下旬までをエントリー期間に設定し、アイデアをまとめた書類を10月中旬に提出締め切りとする。会津若松市内で行う発表は、参加者が訪れやすいよう、文化の日を含んだ連休がある11月に開催予定である。コンテストでは、参加者は現地への訪問や分析を踏まえ、会津若松市の地域魅力向上案を、A4用紙2枚にまとめて提出する。そして、11月に現地で開催する発表会でプランを発表する。

「あいづっとグランプリ」の独自性として、選出されたアイデアをすぐに実現に向け支援できる体制が整っているということがあげられる。さらに、参加者は「あいづっとワーク」に登録するため、参加後も会津若松市とつながりが保たれる点も本プランの特徴である。「あいづっとワーク」と「あいづっとグランプリ」をかけあわせることで、さまざまな年代の者が、会津若松市に足を運び、人のあたたかさにふれ、しごとについて考えるきっかけをつくり出すことができる。

3-3 プランのねらい

本プランの実現によるねらいは3つある。第1は、会津若松市民が会津若松市についてさらなる理解を深め、市内の企業とつながりをもつことである。同市に対する地元愛を強め、将来地元企業への就職を検討することを期待する。第2は、市外在住の参加者が同市に訪れる機会を創出し、同市の魅力を体感してもらうことである。また、参加時に「あいづっとワーク」に加入することで、「あいづっとグランプリ」参加後も同市を身近に感じ、市外の若者が将来的に会津若松市で暮らして働くことを考える可能性が高くなる。第3は、会津若松市の活性化である。会津若松市外の参加者は「あいづっとグランプリ」参加に伴い、調査時や発表時に現地へ訪問すると想定されるため、来訪者の増加による地元経済の活性化もねらいとしている。さらに、「あいづっとグランプリ」で選出された案は、「あいづっとワーク」を通して実現可能性を探るため、若者のアイデアによる新たなビジネスが生まれ、再度訪れたくなるまちになると確信している。

4. 本プランによる効果

第1に、本プランは転出抑制の面において効果を発揮する。特に若年層が積極的に市に関わる機会を創出することで、参加者の生徒といった若者にとっては、社会学習や成長の貴重な機会となる。また、コンテストに参加することで、参加者の学生は地元の良さを再認識し、地域社会への参加帰属意識が高まる。さらに「会津若松市をより良くしたい」と考える市民が市の成長に貢献できる機会が生まれる。

第2に、転入促進の観点では、本プランを通して全国から会津若松市へ興味を持ってくれた人々に市を訪れてもらい、地域住民などと交流を図り、より市を知ってもらうことで、会津若松市への転入を促進できると考える。

第3に、経済的な効果として、本プランへの参加を通じて市内外の人々が会津若松市について知ることができ、「あいづっとワーク」の組織の拡大に伴い地域の魅力が広がる。結果として、生産年齢人口の増加、新たな雇用機会の創出が実現し、地域経済の活性化につながる好循環が生まれる。

本プランは、地域の特性を外部の人にアピールする絶好の機会となり、地域のPR活動が強化される。また、会津若松市の現状の課題である、若者の転出抑制と転入促進の両面の効果が期待される。

このように、本プランは会津若松市における、経済面だけでなく、教育面や地域社会の結束にも大きな影響を与えることが期待される。市役所職員、商工会議所職員、地方銀行職員、市民の代表者、全国から集まった参加者など本プランすべての参加者により、会津若松市の魅力を再認識しつつ、さらなる振興を図る。

5. おわりに

私たちは、事前に会津若松市の課題を想定したうえで、会津若松市での現地調査を行った結果、若者が進学・就職を期に会津若松市を離れてしまい、衰退が進む現状を目の当たりにした。しかし、地域住民との交流を通して、彼らの地元に対する「愛」、会津若松市が将来こうなってほしいなど、それぞれの意見がかなりはっきりとしていることが明らかになった。私たちは、こうした会津若松市民の思いを実現するための機会を創出すること、雇用機会の継続的な創出が、「地方都市における若者の定着」を促すと考え、本プランを提案するに至った。

本プランの骨子である、「あいづっとグランプリ」を行うことにより、地域の若者の意見を取り入れるとともに、全国の会津若松市に興味を持つ人々が、会津若松市の将来のために集い、「あいづっとワーク」を通じ交流でき、多様なプランが創出される機会となる。

集まったプランは「あいづっとワーク」を通して、実際に実現ができるように支援するものとする。私たちは、地域活性化の機会創出だけでなく、挑戦する若者を支援する組織をつくることで、計画から実行までを支えるプランだと確信しており、本プランを通して、会津若松市に若者の定着を実現するものであると自信をもって提案したい。

6. 参考文献

- ・会津若松市の概要 【2024】

[会津若松市の概要 | 会津若松市 \(city.aizuwakamatsu.fukushima.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・会津若松市の魅力 【2024】

[会津若松市の魅力 | 来てみらんしょ 居てみらんしょ 住んでみらんしょ \(aizuwakamatsu-iju.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・会津若松市の市勢統計データ 高齢化率の推移 【2023】

[11_09.pdf \(city.aizuwakamatsu.fukushima.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・グラフで見る！会津若松市(アイヅワカマツ 福島県)の人口と世帯 【2023】

[グラフで見る！会津若松市\(アイヅワカマツ 福島県\)の人口と世帯 出生数推移 \(住民基本台帳ベース\) 【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 \(gdfreak.com\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・政府統計の総合窓口 会津若松市生産年齢人口推移 【2023】

[政府統計の総合窓口 \(e-stat.go.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・会津若松市の市勢統計データ . 従業者規模別事業所数及び従業者数 【2021】

[03_01.pdf \(city.aizuwakamatsu.fukushima.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・会津美里町 【2024】

[ホーム／会津美里町 \(town.aizumisato.fukushima.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・一般社団法人全国地方銀行協会 地方創生事例集 【2017】

[teiketu5.pdf \(aizu-shinkin.jp\) 地方創生事例集 | 一般社団法人全国地方銀行協会 \(chiginkyo.or.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)

- ・会津若松市のふるさと納税の収入 【2024】

[福島県会津若松市 | 自治体・ふるさと納税情報をご紹介【ふるさとチョイス】 \(furusato-tax.jp\)](#) (2024 年 10 月 14 日閲覧)